

■赤染衛門 歌人。中古三十六歌仙の1人。大江匡衡の妻としても大きな役割。「栄花物語」の作者にも擬せられる。

あかぞめえもん

宋建国・・・ 960＝

この頃、平兼盛の娘に生まれるが、すでに兼盛と別れていた母が兼盛が娘と対面したいというのを拒否して訴訟となり、密通していた検非違使赤染時用の裁定で、結局時用の娘とされたといわれ、時用の官職名右衛門尉をとって赤染衛門と称した。

安和の変・・・ 969＝ 9歳：

・・・ 975＝15歳：この年、大江匡衡が文章生となる。この頃、通って来ていた中関白藤原道隆と歌を贈答。

・・・ 977＝17歳：この年、中将尼を母に、大江匡衡の子挙周が誕生したか。

・・・ 978＝18歳：

・・・ 980＝20歳：この頃、大江為基と交際始まり贈答。また、鷹司家に出仕して、為基の従弟大江匡衡と出会い、

・・・ 981＝21歳：交際を始めて、まもなく結婚するが、別居が続き、お互い異性の影に疑心暗鬼、

実際、大江為基とは終世贈答歌を交している。

・・・ 987＝27歳：為基の父が死去。この頃までに、同居し、挙周に対しても、実子にもまさる慈愛を注いだといわれる。

女院号始・・・ 991＝31歳：実父平兼盛が死去。

疫病大流行・・・ 995＝35歳：この年、道隆が死去。

花山法皇事件 996＝36歳：藤原伊周左遷事件に、関係があったと噂されて、蟄居するも、道長の妻源倫子から花見に誘われる。

夫匡衡や子挙周の任官に助力し、

・・・ 998＝38歳：この年、長く不遇をかこっていた夫匡衡が東宮学士に抜擢され、江家といわれる学者の家の面目を発揮、以後、一条天皇侍読・侍従の道に登る。

彰子入内・・・ 999＝39歳：道長・倫子の春日詣にも同道、この年入内した(上東門院)彰子にも仕える。

二后並立・・・ 1000＝40歳：倫子の法輪寺詣に随伴し、自らも私的に参拝か。

枕草子・・・ 1001＝41歳：尾張守に任じられた夫匡衡に従い、鷹司家を辞して、任地に下る。

・・・ 1002＝42歳：任地で熱田社詣、国の民の罷業を聞いて、真清田社に奉幣か。前女院(詮子)菊合。

・・・ 1003＝43歳：帥宮邸へ参るといふ和泉式部と贈答するなど、尾張を訪れる知人があると贈答。

和泉式部日記1004＝44歳：*挙周の恋歌を代作、以降、男女を問わず、様々な場において代作をしてやる事が多く、この年、匡衡が藤原公任から上表文の依頼を受けた際にも、夫に助言して作成せしめるほどので、

・・・ 1005＝45歳：この年、紫式部が上東門院に出仕。尾張守の任期が終わった夫匡衡とともに帰京。

源氏物語始・・・ 1008＝48歳：「紫式部日記」で、和泉式部を辛辣に批判後、赤染衛門を誉めるなど、押しも押されぬ存在になる。

・・・ 1009＝49歳：再び、尾張守に任じられた夫に従い、任地に下る。

挙周は家の学問を継いで儒者となっていたが、

和漢朗詠集・・・ 1012＝52歳：*夫匡衡に先立たれ、多くの哀傷歌を詠んだ。

源氏物語・・・ 1014＝54歳：

三后鼎立・・・ 1018＝58歳：

刀伊来寇・・・ 1019＝59歳：この年、挙周が和泉守に任じられる。

・・・ 1020＝60歳：娘(和歌をもって聞えた才女江侍従か)が死去。

・・・ 1023＝63歳：この年、和泉守の任期終わった挙周が帰京後、病気となり、住吉社に平癒祈願。

・・・ 1025＝65歳：挙周が三河守となる。

藤原道長没・・・ 1027＝67歳：この年、藤原道長が死去、

藤原道長の栄華を綴った大作「栄花物語」があるが、物語40巻のうち正編の作者に擬せられており、これをくつがえす新説はいまだ現れない。

・・・ 1032＝72歳：

・・・ 1033＝73歳：*屏風歌では倫子70歳の賀の代表作がある。

僧徒狼藉始・・・ 1035＝75歳：関白藤原頼通の歌合に出詠。

・・・ 1041＝81歳：「弘徽殿歌合」に出詠したのが最後の記録で、まもなく没したと思われる。

家集「赤染衛門集」のほか「拾遺集」以下「新古今集」に至る和歌集、および「賀陽院水閣歌合」「弘徽殿女御十番歌合」などに詠歌を残し、伝えられる代作・説話が多い。歌人としての才能は和泉式部と並び称され、それは平兼盛の血を引くものかといわれる。清少納言、伊勢大輔などとも交流があった。

斎藤照子「赤染衛門とその周辺」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「王朝の歌人たち・中世の歌人たち」、日本の古典名著、「日本の女性」、